



四 気 折 々

川越町立川越中学校
「学校だより」
第35号 令和4年
11月14日(月)

四気＝川越中学校訓 「やる気 ほん気 こん気 げん気」

学校教育目標 『自立した生徒の育成 ー自律・調和・創造ー』のもと

・自分を大切にする ・他者を大切にする ・粘り強くやり切る 生徒
・人を大切にする ・安全で安心できる ・地域や保護者とともにある 学校 づくりを目指します

悪ふざけでしてしまった行動が、被害側の方の当たり前の日常の幸せを奪ってしまった。この現実の後戻りできない。いま、できることはこの現実を受け止め、自分のした行動を認め、自分の弱さに向きあい、弱さを認め、これからの生活に必ずつなげること。

学校は、『学びの場・教育の場』です。二人の行動だけを責めるのではなく、学校全体で問題を考え、「他人事」ではなく「自分事」として共有できたことが大切なんです。

みんなの正義感・正しい判断が、そして二人が『弱い自分を受け入れ、認めることができた』からこそ、被害側のご家族から優しくあたたかい言葉をいただけたのだと思います。

今回の「学校だより第35号」にて、自転車での命にかかわる危険運転について記載させていただくことを、2名の生徒と保護者、そして被害側のご家族にも承諾をいただいていることを申し添えます。

【11月11日(金) 17:20 校長室にて】

被害側のご家族と校長が対面し、学校を代表して校長から謝罪。そして、2名の生徒の反省と謝罪、お詫びの内容を綴った手紙(保護者の方の手紙も含む)を、校長からご家族にお渡しさせていただきました。

【被害側のご家族からいただいたお言葉】 こんなにあたたかいお言葉をいただきました。

学校全体で、今回のことを丁寧に対応いただきありがとうございました。

生徒さん、保護者の方の手紙の内容について、よくわかりました。とにかく、『周りを見ることが出来る優しい人になってほしい』と思います。そして、『これからの生活の中で問題となる言葉や行動が起きたときに、注意ができる。そんな優しい人になってほしい』と思います。

【①～③の内容は、全校生徒に朝学活で2日間にわたって周知した内容です】

① 今回のことって・・・？！

本校生徒が関係する『命にかかわる自転車での危険運転について』

10月27日(木)の16時すぎ、南福崎地区の道路で妊婦さんがお子さんを保育園に歩いて迎えに行く途中で、自転車に乗った2人の中学生(1人は本校の体操服を着て、ヘルメットをかぶっていない生徒でした。もう1人は制服を着てヘルメットをかぶっている生徒でした)が妊婦さんの正面からやってきて、1人が妊婦さんに接触するほんの直前で自転車のハンドルを切って妊婦さんを避けながら、笑いながら「すみません」と言葉をかけ通り過ぎていった。もう1名の生徒はその危険行為を注意することなく一緒に笑って通り過ぎていきました。『妊婦さん、おなかの赤ちゃんの命にかかわる非常に危険で重大な行為がありました。』

② 今回の件は・・・何が問題なのか？！

- 1、妊婦さんの方の正面から、ぶつかる寸前まで避けず通行している非常に危険な行為である点、そして妊婦さんはもちろん、妊婦さんでなくても、命にかかわる非常に危険で重大な行為であるということ認識していない点

- 2、きちんとした謝罪もせず、笑って謝りながら通り過ぎていく、一緒にいた人も注意することなく笑っている点。
- 3、ヘルメットをかぶらずに自転車に乗っているという点
- 4、川越中学校の自転車通学を許可している人は「交通ルールとマナーをしっかりと守れる人」だけとなっています。そのルールを違反していること。

③ なぜこの内容で、全校生徒で考え問題を共有し、事実を記入してほしいのか

- 1、自分だと思ふ人があれば勇気を出して、正しく常識のある判断をし、自分から申し出てほしい。だからこそ、素直な思いで正直に記入をしてほしいと思います。
- 2、今回、自転車に乗っていた2人が今回のことをきちんと理解して、反省しこれから安心安全な登下校ができるようにしっかりと教えてあげたいのです。だから、情報があれば教えてください。
- 3、この件を「他人事」ではなく「自分事」として考え、安心安全な自転車通学や交通安全について一緒に考えてほしいからです。

全校生徒のみなさんが「他人事」ではなく、「自分事」として考え・・・



2日間にわたって全校生徒と問題を共有し、現状の川越中の交通安全を考えました。そして、この問題にかかわる複数の情報をもらいました。そこには「正義感と正しい判断」をしてくれたみんなの姿がありました。



この問題にかかわった2名の生徒が「自分の過ちを認め」、「自分の弱さ、弱い自分」を否定するのではなく、「弱い自分」を受け入れることができた。自分の悪ふざけの行動が、被害側の方の当たり前の日常の幸せを奪ってしまったことをしっかりと理解し、命にかかわる危険で重大なことをしてしまったことに気づき、反省することができた。

しかし、被害側のご家族は、謝罪を受け入れていただけませんでした。学校からは手紙だけでも受けとってくださいとお願いし、受け入れていただきました。手紙から、反省や謝罪の気持ちは十分に伝わったと思います。でも、「同じ川越町に暮らす人間として、これからも顔を合わせたりする可能性もあるし、同じ場所で同じことは無いと思いたいですが、今回のことは本当に怖かったので・・・。」この言葉がすべてだと思います。ご家族からは、「保育園のお迎えも車で行くことにしました。」（本当は、保育園のお迎えの帰りにお子さんと手をつなぎ、お話をしながら楽しく歩いていく日常の時間が幸せだったのだと思います。）この妊婦さんは川越中学校の大切な卒業生であり、みなさんの大切な先輩です。

【2名の手紙の内容から一部を抜粋して】

- ◆「これからは、この事実をしっかりと受け止めて、今後どう行動していくのかをわきまえます。やっぱり、日頃からの中学生としての自覚と責任がたりないと思う。だから、相手に怖い思いをさせても、へらへらと笑っていたと思う。自分の日常生活が、このことにつながっていると思いました。・・・」
- ◆「自分の危険な自転車の運転で、危険な目と怖い思いをさせてすみませんでした。ただでさえ、赤ちゃんがいるから気を付けて行動されてるのに、こんなに怖い思いをさせて本当にすみませんでした。赤ちゃんの大切な命も背負っていて、本当に赤ちゃんのことを気にして歩いていたのに・・・（間を空けます）・・・スピードが速い自転車に来てぶつかりそうになったら、とても危険で怖かったと思います。本当に命の大切さもわからずに危険な自転車運転をしまして本当に申し訳ありませんでした。」